

報告1 輝く創年とコミュニティ・フォーラムについて

酒々井まちづくり研究所オープニングイベント



—住民主体で開催・運営— 200人を超す参加者

酒々井まちづくり研究所のオープニング・イベントとして、全国の創年とまちづくりの事例などを中心に学ぶ場、そして今後の研究所の構想や活動のあり方を探る機会、交流の場として「輝く創年とコミュニティ・フォーラム」を12月8日に酒々井町中央公民館及びプリミエール酒々井を会場に開催しました。

青樹堂師範塾塾生及び住民活動団体交流会運営委員の方が「酒々井まちづくり研究所オープニング・フォーラム実行委員会」委員として開催準備を重ね、当日の分科会も運営していただきました。

午前中の分科会は、「人と人とを結びつける地域活動の実践」を主題とし、市民大学と公民館の関わり、創年と子ども、観光と観光教育、女子力と仕事づくりの4つのテーマを4会場で開催し、用意した資料が足りなくなるほど盛況で、遠くは山形県天童市からもおいでいただき約220人が参加しました。

また、午後からは、「こちら酒々井まちづくり研究所—住民がまちづくりにかかわるとき」と題して、酒々井まちづくり研究所福留強（ふくどめつよし）所長から基調講演があり、「まちづくり、生涯学習からのスタート」と題して行われたシンポジウムは、パネリストに文部科学省生涯学習政策局社会教育課課長 坪田知広（つぼた ともひろ）氏、俳優・歌手の三ツ木清隆（みつぎ きよたか）氏、スコーレ家庭教育振興協会会長 永池榮吉（ながいけ えいきち）氏、(株)図書館流通センター代表取締役会長 谷一文字（たにいちあやこ）氏と私（小坂町長）、そして、コーディネーターは福留強所長により行われ、各氏からまちづくりの関わりの話しや提言等がありました。参加者は約230人でした。

また、交流会については、分科会及びシンポジウムの講師も参加し、情報交換・名刺交換が行われ、酒々井町の食材も味わい、約110人が参加され楽しい交流会となりました。

—自ら学び・自ら考え・実践できる— 酒々井の住民力発揮へ

今後、酒々井まちづくり研究所は、まちづくり研究会の結成、定例会の開催、町内外団体との交流事業などを行っていきたくと福留所長から聞いています。

町といたしましても、町民が自ら学び自ら考え、実践できる住民活動の場を創出し、第5次総合計画のもと高齢化時代にあっても将来に希望の持てる、持続可能なまちづくり、住民自治の実現のため、酒々井まちづくり研究所により酒々井の住民力がさらに発揮できるよう支援をしてまいりたいと考えています。

※創年：「新たな人生に挑戦し、生涯現役を目指す人々の呼称」とする造語